

# 県勢2チーム 8強 全国草サッカー男子2日目

第37回全国少年少女草サッカー大会（朝日新聞社など主催、第一三共ヘルスケア協賛）男子の部2次リーグ戦が18日、静岡市内であり、県勢ではFC STELLA焼津（焼津市）と高部JFC（清水区）の2チームが8強入りを決めた。昨年の台風15号で被災した地元少年団や優勝候補のチームも躍動。遠く北海道から参加したチームも会場を沸かせた。19日は3次リーグ戦（順位別リーグ戦）がある。

## 北海道から18回出場



攻撃の起点となり、ゴールも決めた角瀬颯太選手⑧（中央）

### サッポロボーイズ

## 青色ユニで躍動

青色のユニホームを着た選手は躍動に、他チームの応援席からも拍手が送られた。会場を沸かせたのはサッポロボーイズFC（北海道）。チームが発足した2000年の初参加以降、大会出場は18回を数える。小柄ながら走力のある選手が多く、果敢にボールを奪って仕掛けていく。この日はすべて1点差の接戦。大和ジュニア（岐阜）との第1試合は後半、DF角瀬颯太選手（6年）が不意をつくロングシュートを決めて1-0

で勝利。第2試合は東京、第3試合は愛知のチームに競り負けたが、内容は負けていなかった。「負けは悔しいけれど、力は出せた」と角瀬選手。主将の本間蒼汰選手（6年）は「強いチームと戦えたから自分たちの弱い点もわかった」と話す。川内悠平監督（38）は「各地からチームが集まる大会なので、様々なスタイルのサッカーや文化を学ぶことができる。今日の悔しさを次につなげてほしい」と語った。（杉山圭子）

## 優勝候補の一角



コーナーキックで競り合う選手たち

### SALFUS

## 敗戦糧に成長を

優勝候補の一角といわれた強豪・SALFUSORS（静岡市清水区）は、1位リーグを2勝1敗で8強入りできなかった。初戦はP・S・T・C・L・O・NDRNA（神奈川）に2-0と幸先よく勝利。だが、2試合目のSTELLA焼津戦では攻めあぐねた。逆に相手のセットプレーなどで点を奪われ、1-2と敗れた。3試合目のエクセルシオールFC（沼津市）戦では、細かく

パスをつなぐなど、技術の高さを見せた。9-1で圧勝したが、2試合目の負けが響いた。主将の杉山那偉選手（6年）は「悔しい。残りの試合は全部勝ちきたい」。2日間で18得点を挙げたという近藤瑠緯選手（6年）は「もっと点を狙っていきたい」と前を向いた。伴野公哉監督は「状態はよかったが2試合目は難しい試合になれば」と語った。（黒田壮吉）

## 昨年台風で被災



はつらつとしたプレーをみせる選手たち

### 江尻SSS

## 試合できる感謝

今回の出場団体の中には昨年9月の台風15号被害を受けたチームもある。静岡市清水区で活動する江尻サッカースポーツ少年団は練習場が水浸しになり、選手たちは断水で不自由な生活を強いられた。この日は3位リーグでプレーした。初戦は落としたが、次の試合は快勝。迎えた最終試合は前半2-0で折り返したが、後半逆転され2-3で敗退した。2試合目で決勝のゴールをは

じめ2得点を挙げたFW森翔真選手（6年）は、通う小学校のグラウンドが少年団の練習場だったが台風で湖のようになってしまったという。「練習がほとんどできなかった」と当時を振り返る。GKの宮原叶主将（6年）は「今はサッカーができることに感謝したい」。片山智博監督（32）は「つらい経験だったが、いい方向へ持って行ってくれば」と児童たちの今後の成長に期待を込めた。（中村純）